

大きなけやきの木の下で 絵本のはなしをしましょうよ。

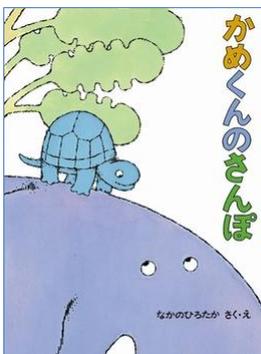


2025年7月のはじめごろ こまばようちえん

みなさま、こんにちは！ 暑いですね。私のこども時代は昭和30年代。夏はもちろん、暑かったのですが、今のように「酷暑」というほどではなかったように思います。今年の梅雨は紫陽花が全体的に茶色っぽく、かたつむりの姿も見なかったように思います。自然にも人にも厳しい気候です。もうすぐ夏休み、暑くて外に出られない時は、涼しいお部屋でゆっくり絵本を読むのはいかがでしょう。今回は少し長いお話や一日一話ずつ読めるお話も紹介しています。

では、大きなけやきの木の下で、絵本のはなしをいたしましょう。

① たんぽぽ組・年少組のみなさんに。



● 『かめくんのさんぽ』

なかのひろたか・作 福音館書店 1,100円/2019年

かめくんが、いいお天気に誘われて散歩に行きます。わにくんを誘いますが、「いまはおひるね。さんぽはあとで」といってぐうぐう寝てしまいます。「それ

ならわにくんのうえをさんぽしよう」。かめくんは、わにくんの背中をえっちらおっちら。次に会った、かばくんも、ぞうくんも、「おひるねだから」と一緒に散歩に行ってくれません。かめくん、かばくん、ぞうくんの背中の上をえっちらおっちら。いい感じでぞうくんのうえを散歩していたら……。かめくんにアクシデントが！ でも大丈夫。ぞうくんが助けてくれて、わにくんもかばくんもきてくれて、みんなでお散歩できました。かめくんは、ゾウくんの上でおひるね、ぐうぐうぐう。幼稚園のサスケは今ごろ何をしているのかしら。やっぱり、お昼寝かな。（須藤）



●『うみ うみみみみ』

すとうあさえ・文 北村直子・絵 ほるぷ出版 1.188 円/2025 年

息子たち（双子）が 2 歳の時に初めて海に連れて行きました。二人は私にしがみついている、海水に足をつけることも嫌がりました。初めて見る海は、広くて、大きくて、ざぶんざぶんという波の音がひっきりなしに聞こえてきて、怖かったのかもしれない。そんな記憶をもとに書いたお話です。海は、広いよ、しょっぱいよ、あおいよって、かめやイカやくじらたちが教えてくれます。少しずつ、海と親しくなっていってくればいいな。画家の北村直子さんは、井の頭自然文化園の専属デザイナーのお仕事もされています。生き物たちを丁寧に、でも表情豊かに描いてくださいました。擬音満載の絵本。好きなように、楽しみながら、読んでいただければと思います。「はじめてのこよみえほん」シリーズの「小暑」のお話です。（須藤）



● 『こっこさんとあめふり』

片山 健 作 福音館書店 990 円/1991 年

毎日、雨ふり。小さな女の子・こっこさんは、自分で作った「てるてるぼうず」をつるしてお願いします。時にはてるてるぼうずの中にお手紙を入れ、それでもダメなら自分の「たからもの」を入れて太らせて。てるてるぼうずが疲れているのかもと思えば、布団をかけ寝かせて歌います。「てるてるぼうず てるぼうず あした てんきにしてください」←読んでいると自然にわらべうた風味の節回しになりますね♪ さあ、翌日のお天気やいかに…!? 「ね!」のラストページは息をのむ晴れやかさ。おひさまの光が本からあふれそう。思わず、やったー!そしてウットリします。どうぞ、少しだけ“間”を取って、「ね!」を開いてくださいますように。読み返す度に、こっこさんのてるてるぼうずに向き合う慈愛深い顔が、いとおしくてたまらなくなります。(近藤)



● 『こねこが』

まつおか たつひで 作 めくるむ 1650 円/2021 年

こねこが歩いていると、いろんな生きものに出会います。ちょうちょ、かたつむり、かえる、せみ、ひよこに。その度にこねこは「なかよくしたい」と思ってコミュニケーションをはかるのだけれど…うーん、なかなかうまくいきません(お父さんオンドリに追いかけられたり)。でも最後はおかあさんに「ぎゅっとして」もらって一緒に寝転ぶこねこの幸せそうなニッコリ顔。よかったねー。日々の遊びでちいさな冒険をして、ちいさな失敗をしながら育つこねこは、幼い子どもと同じですね。単純明快スッキリとした構成で、それぞれの生きものの生態もさりげなく描かれています。

作者は、『ジャングル(岩崎書店)』などの自然科学絵本の第一人者・松岡達英さん。大型絵本にもなっている赤ちゃん絵本『ぴょーん』をご存知の方も多いことでしょう。(近藤)

② 年中・年長組のみなさんに。



● 『ぼつつん とととはあめのおと』

戸田和代・作 岡田千晶・絵 PHP 研究所 1320 円/2012 年 重版未定

あーちゃんは、雨がきらい。だって、だれもあそびにこないんだもの。つまらないな……。そんな時、外から、「ぼつつん とととはあめのおと・・・けほっ」と変な声が聞こえてきました。それは、かえる。「つまらなかったら、ぼくんちにいらっしゃい!」。もちろん、あーちゃんはでかけましたよ。そうしたら、ぬいぐるみたちも、おもちゃのトラックも、「いく!」。かえるを先頭にみんなで雨の中を行進です。かえるの家に着くと、お母さんが、ごちそうをどんどん作って出してくれました。仲間もあちこちから集まってきました。「ぼつつん とととは あめのおと、けろろーっ」「たのしい たのしい あめのおと、ころろーっ」。戸田和代さんはファンタジーの名手です。6 月生まれなので雨とかえるが好きなのだそうです。岡田千晶さんの絵も背景が美しく描きこまれていて、ぬいぐるみたちも何てかわいらしいことでしょう。(須藤)



● 『おしゃべりくらげ』

あまんきみこ・作 みずうちさとみ・絵 フレーベル館 1,650 円/2020 年

ある日、釣りの好きなよし平さんが、1 時間粘って、やっとクラゲのこどもを釣ります。海に帰してあげようと思しますが、「いやだあ!」とクラゲが言うのです。そして、クラゲが語る「つりばりのまわりで起こっている命がけの遊び」によし平さんはびっくり。クラゲを連れて一緒に暮らすことにします。10 日あた

り過ぎた満月の晩のこと、ほのじろい大きいものが迎えにきます。そう、クラゲのお母さんです。そこで交わされるお母さんとクラゲの子の会話が心にしみま
す。

あまんきみこさんの文章はとても端正で美しいです。私が好きすぎるからか
もしれませんが、読んでいると気持ちがゆったりしてきます。みずうちさとみさ
んの刺繍絵（私が勝手につけました）にも面白い味わいがあります。

この絵本は長いので、夏休みという時期に、一日少しずつ読んでいくのも良い
と思います。「今日は、ここまで。続きは明日」というように。（須藤）



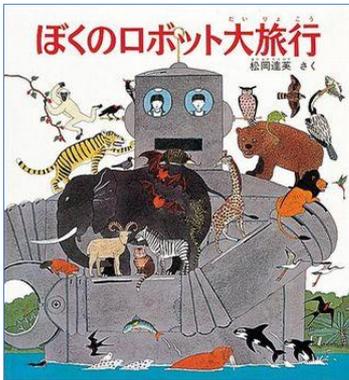
● 『どろんこのおともだち』

バーバラ・マクリントック 作 福本友美子 訳 ほるぷ出版 ※重版未定
1650円 /2010年

ある日、シャーロットがクマのぬいぐるみブルーノとどろんこケーキを作っ
ていると、プレゼントが届きました。それはエズメおばさまからで、レース飾り
のたくさんついた、美しいお人形。シャーロットは、その人形にダリアと名付け、
こう言います（←シャーロットが集めてきた鳥の巣・昆虫標本・木の実や貝がら・
小動物がいる部屋で）。「わたしたち、どろんこあそびやきのぼりがすきな。～
中略～わたしたちのやりかたになれてちょうだいね」

はたして、きれいなドレス姿のダリアは、見事に(?)順応！どろんこ遊びを手
始めに、川遊びにワゴン競争、木登りまで楽しくやってのけました。さて、変わ
り果てた姿のダリアをまじまじと見たエズラおばさまは、シャーロットになん
と言ったでしょう…？

ご安心を。エズラおばさまは、「子どもの味方」ができる成熟した大人で、ま
さにシャーロットの理解者だったのです。なんて素敵！“子どもの世界”がきち
んと描かれるこの本が、男女問わず親子問わず、気に入ってもらえますように。
（近藤）



● 『ぼくのロボット大旅行』

松岡達英 さく(福音館書店)1984年/1430円

子どもの「こんなことができたらいいな！」をパワフルにかなえてくれる絵本です。扉絵には、自分の机に座って作業する男の子の後ろ姿が。この絵本の主役の一人「巨大ロボット」の設計図を描いていたのです。男の子は友だちの女の子と一緒に、そのロボットに乗り込みます(もちろんまずは食料品を積みこんで♪)。二人はロボットを操縦しながら、日本だけにはとどまらない大旅行を繰り広げるのですけれど、それがもうめくるめく壮大なスケール！それもそのはず、行き先は海中…深海…北極…アラスカ…アマゾン…オーストラリア…ニューギニア…アフリカ…なんですもの。各地の景色のすばらしさもさることながら、その地で躍動する生きものたちの姿にワクワクしっぱなしの展開。自然科学絵本界の大御所・松岡達英さんが見せて(魅せて)くれる世界観にどっぷりひたれるぜいたく。

初回だけでも親子一緒に丁寧に読むと、あとは、子どもだけでも・字が読めずとも、楽しめると思います。そうそう、扉絵のアフター的なあとがき絵まで堪能できますよ。小学生以上にはますますオススメ。一家に1冊いかがでしょうか♡(近藤)

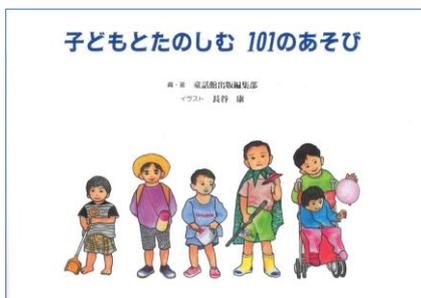
③ 大人のみなさんに。



● 『ないた赤おに』

浜田廣介・著 梶山俊夫・絵 偕成社 2200円/1993年

「ないた赤おに」のお話を読んだことのある方は多いと思います。青おには、わざと悪者になって人間に乱暴をふるいます。そこへ赤おにがやってきて青おにを退治し、人間たちを助けます。それは赤おにの人間と仲良くなりたいたいという夢を叶えてあげるために青おにが考えたお芝居でした。駒場幼稚園の3代目の園長鹿野京子先生が子どもたちにこの絵本を読んで聞かせたことがあったそうです。そして子どもたちに、思い浮かんだ情景を絵に描きましょう、とおっしゃったそうです。当時、園児で現在理事の中村由美子さんは、「青鬼と赤鬼がお茶を飲んでいるところを描いた記憶があります」と50周年記念誌の「卒園生の座談会」で述べています。小田島恒志さんは「『ないた赤鬼』は僕が初めて自分で読んで泣いたお話なんです」とおっしゃっていました。友情の深さと切なさをひしひしとを感じる物語。青おにはその後、どうしたのだろうかと思像してしまいます。「泣いた赤おに」は複数の出版社から出ています。好きな画家さんの絵本を選んで読んでみてください。(須藤)



● 『子どもとたのしむ 101のあそび』

童話館出版編集部 編著 長谷 康 絵 (童話館出版) 1998年/1572円

もうすぐ夏休み。ということは、毎日子どもがいる家の中…さあ、どんなふうに過ごしましょう？ というわけで、せっかく子育てするならおもしろがって・せっかくの長い休みなら時にはこんなふうに一緒に遊んで、無理のない範囲で、子どもとの楽しいひとときを過ごしてみませんか♪こんな時間が実は、親子関係をより素敵なものにするだけではなく、子どもの「遊び＝学び」「ひとり時間」を豊かにする栄養になっていきます。

さて、この本の「はじめに」は、童話館出版編集部さんが親に語りかけるようなあたたかさや深いまなざしを感じずにはられません。以下を抜粋しますね。

★子どもは、遊ぶことでよろこびに満たされるとともに、生きていくために必要な知恵や技量、そして精神の力を身につけていきます。

★この本には、およそ2才くらいから小学校低学年くらいまでの子どもと親のた

めのお遊びを、収めています。わらべうたから始まって、造形のお遊び、室内お遊び、外お遊び、自然とのふれあい、思うこと、など101のお遊びをご紹介します。

●この本のお遊びをとおして、親と子が、たがいをかけがえのない人として求めあい、愛情深く結びあっていかれることを願います。どうぞ、たのしいひとときを。

…ごく身近で生活のなかにある遊びばかりなのがうれしいです。特に個人的に「なるほど」と感心したお遊びは【95.耳をすます】【99.みんなのよいところ】。各ご家庭で“これは楽しそう、これなら遊べそう”と思えるものから、ぜひ。(近藤)



● 『子どもに聞かせる 世界の民話』

矢崎源九郎 編 (実業之日本社) 1988年/2883円

暑くてあわただしい毎日のどこかで？1日の終わりに？親子の“楽しいひととき”のための味方になってくれる物語を心からオススメします。

世界中の民話(昔話)が81話収められた本格昔話集。初版から長い年月が経っているとは思えないほどのおもしろさで、とても読みやすい。実は、語り手として活動するわたしのお役立ち本でもあります。たとえば小学校で語って喜ばれるおはなし『ヤギとライオン/トリニダード・トバゴ』『王子さまの耳はロバの耳/ポルトガル民話』は、こちらのテキスト(文章)なのですよ。

ありがたいことに、昔話は子どもの“うちがわ”の成長をうながしてくれる無形文化遺産でもあります。甘く改変されていない魅力的なものを、子どもたちにたくさん語ってあげたいものですね。とはいえ、81話と多い上にグレードも考えたいので、特にオススメのおはなしをいくつか挙げますね。『ひなどりとネコ/ミャンマー』『二ひきのよくばりこぐま/ハンガリー』『マメ子と魔物/イラン』『ギアッコ少年と豆/イタリア』『アナンシと五/ジャマイカ島』など。ちなみに↑これらは小学生も同じように楽しめますよ。小学生向けに追加するなら『ロー

ザとジバル(有名な「美女と野獣」の類話/クロアチア)『あわれな悪魔/スウェーデン』『マルーシカと12の月/スロバキア』『クルミわりのケート/イングランド』『岩じいさん/中国ミャオ族』なども。耳で楽しむ物語の幸せを、親子でどうぞ。(近藤)

• 絵本はざっくりと次のように対象年齢にそって紹介していきます。ただ対象年齢はあくまで目安です。お子さんが興味を示した絵本、お子さんに読んであげたいなと思った絵本を見つけたら、手にとってみてください。

- ① たんぽぽ組・年少組のみなさんに②年中・年長組のみなさんに③大人のみなさんに
- 「重版未定」の絵本も積極的に取り上げます。図書館に入っていますし、リクエストが多くなると復刊される可能性もあります。
 - ここでご紹介した絵本は藤井チズ子前理事長からいただいた寄付金で購入し、「藤井文庫」として本の部屋に所蔵しています。移動図書館でお子さんが借りていくかもしれません。背表紙の藤色の丸シールが目印です。